



みどりの風

平成31年2月1日発行
校報 第560号
(みどりの風 第103号)
練馬区立関町北小学校

想像力

校長 大野 泰弘

早いもので、二月になりました。先日の展覧会には、多数の皆様にご来場いただき、子どもたちの心のこもった作品に対して、温かい励ましのお言葉を賜り、厚く御礼を申し上げます。また、「子ども学芸員」の活動を行った6年生にも様々な角度から質問したり、その説明を聞いたりしていただき、有難うございました。学校の代表として努力した6年生も大きな満足感や達成感を味わうことができたようです。

今回の展覧会のテーマは「おもいを かたち」でした。子どもたちは、想像力を働かせて、自分なりの思いを作品に豊かに表現していました。皆様は、子どもたち一人一人の「思い」をどのように受け止めてくださったでしょうか。

ところで、この「想像」という言葉、学校でも、例えば、国語の時間に「 の気持ちを想像してみましょう」という形で使われることがあります。が、「想像する」ということ、あるいは「想像力」というのは、「様々な事象に対して思いめぐらす」、「心に思い描く力」のことであり、外の世界や多くの人々とかかかわりながら生きていくために必要な能力の一つで、ものや風景に限らず、心や感情などの内面、時空を超えた世界など、経験の有無にかかわらず、多様に広げていくことができます。その「想像力」の働きを大きく捉えると、

その人生を肯定的に受け止め、豊かで楽しく、生き生きとしたものにしていく働きがある

自分自身にかかわる周囲の人々とのよりよい関係を構築し、自らの言動を高めていく働きがあると考えられます。子どもたち一人一人が自らの生活をより豊かに充実させていくために、あるいは、人との関係をよりよく発展させていくためには、「想像力を高める・鍛える」必要性が生じてきます。

では、「想像力」を高めていくスタートは何かと考えると、それは「[対象に対する]興味をもつ」ことではないでしょうか。それがないと、周りからの指示を待つ、受け身的で、インプット中心になるからです。言われるのを待ち、それを正確に遂行するというだけでは、子どもの世界はともかく、大人の社会では、将来、容易に人工知能やロボットに取って替わられてしまうかもしれません。興味や関心をもつこと、心を開放することで、子どもたちの思考のシステムが動き出します。図工でも家庭科でも、指導者から提示されたテーマに対して、「これはおもしろそうだ」、「やってみたい」等、子どもたちが前向きに受け止めた瞬間から、想像力が働き始めると考えられます。

次に、その「想像力」をどのように高めるか、鍛えるかということですが、多くの専門家が、「新しい物事にすすんで取り組み、一つのことを多様な角度から考え、諦めずに試行錯誤を繰り返す」ことの大切さにふれています。

そして、次のようなことを具体例として示しています。

<想像力を高め、鍛えるには……〔子どもに関わることのみ 順不同〕>

読書をする	新しい世界を体感し、いろいろな疑似体験をすることができます。
耳から学ぶ	読み聞かせやラジオを聞くことなどは、言葉への集中を高め、自由な想像を助けます。
多様なものの見方をしてみる	事象を一つの側面から決めつけるのではなく、多面的・多角的に捉えることで、ものの見方が広がり、新たな気づきが生まれます。
自分の問題として考えてみる	相手の立場や思い、自他に横たわる問題などを自分のこととして考えることで、自らの言動の振り返りにもつながります。
「遊び」を多面的に工夫する	時間・空間(遊び場)・仲間の減少という課題はありますが、「遊び」を通して、イメージの共有化を図ることができます。
ネットの世界から離れてみる	情報のインプットではなく、アウトプットを心がけていくことで、自らの興味を追究したり、自ら考える習慣を形成したりする機会となります。

今回の展覧会の作品を観て、子どもたちの知識と経験が上手に関連付けられ、その中で「思い」描かれた、色、形、表情等々が見事に「形」になっていたように感じられました。子どもたちが感じた興味は、想像力を鍛え、さらに創造力につながり、人生の幸福や豊かさ、潤いを生み出していくことでしょう。今後も、子どもたちの無限に広がる「想像力」を支えながら、自由に考えることを楽しみ、表現していく子どもたちの姿を追い求めていきたいと思っています。